

シリーズ 冷戦終結 30年

米国とソ連(当時)の両首脳が1989年12月に冷戦終結を宣言して以降、世界は全面的な核戦争の恐怖から解放された。その後、米口の核軍縮交渉も進み、2000年の核拡散防止条約(NPT)再検討会議では、米国、英国、フランス、ロシア、中国の核保有5カ国が「核廃絶の明確な約束」をした。09年にはオバ

マ米大統領がブラハで「核兵器のない世界」演説をし、17年には核兵器禁止条約(核禁条約)が国連で採択された。しかし、近年の核兵器を巡る情勢は一気に不透明になり、核兵器の復権さえ議論になっている。核軍縮・廃絶の課題と展望について一橋大学国際・公共政策大学院長の秋山信将教授に聞いた。

核軍縮の課題と展望

一橋大学 国際・公共政策大学院長 秋山信将教授に聞く



あきやま・のぶまさ 1967年静岡県出身。一橋大学法学部卒、博士(法学)。米コーネル大学、英オックスフォード大学留学。広島市立大学平和問題研究所講師、日本国際問題研究所軍縮・不拡散促進センター主任研究員、外務省在ウィーン国際機関日本政府代表部公使参事官などを経て現職。専門は国際政治、軍縮・核不拡散。編著「『核の忘却』の終わり」(2019年刊)ほか。

性能向上をめざし続けた核保有国

開発競争

オバマ米大統領の「核のない世界」演説で核廃絶への期待が高まったものの、核を巡る状況は悪化している。なぜか。秋山信将教授 急に情勢が悪化したわけではない。

「核の傘」から出て安全高まるか

禁止条約

冷戦後も核保有国は、核によって核戦争を防ぐという核抑止論を不動のものと考えていたのか? 秋山 対立する国家間関係の一形態としての抑止を全くなくすことは不可能だろう。ただ、「抑止全体の中での核の役割は削減していくべきだ」との考えは共有されていたと思う。

核を巡る主な動き

スウェーデンのストックホルム国際平和研究所 米口の核軍縮では、米によれば、米口英仏中に反、北朝鮮、イスラエルの「核兵器保有9カ国」の核弾頭数は、1月時点で約1万3865発。全体では減少傾向だが、世界の核兵器の9割以上を保有する米口両国は既存の核兵器や生産施設の近代化へ、大規模かつ資金のかかる計画を推進し、その情勢だ。



新戦略核兵器開発を昨年大規模に発表。モスクワ市内でロシア国防省次長が演説した。ロシア国防省発表(ロイター=共同)

性能向上を図ってきた。その背景には、通常戦力において米欧が圧倒的に優位な戦略環境があり、ロシアはそれに対抗するため核戦力の充実が必要だったのだ。トランプ政権も緊張を高めているのではないか。秋山 トランプ政権下

困難な問題に挑む姿勢をどうつくるか

意識変革

外務省は核禁条約採択後「核軍縮の実質的な進展のため」の賢人会議を設置した。その白石陸軍長は、対立する双方の対話には礼節が大事だと繰り返し語っていた。秋山 核保有国、非保有国から集った賢人会議のメンバーは、礼節ある議論をされたと思う。礼節にはある意味、不同意

を認め合う部分がある。しかし、本心に核廃絶に向かうのなら、同意をどう乗り越えるかを考える必要がある。そのためには、対立する双方が抱えている安全保障上、または人道上の懸念をまず整理する必要がある。そうした論点を整理して賢人会議として考える核廃絶への第一歩だ。秋山 核兵器がなくなっても、国家間の関係を考える上で安全保障の思考、抑止の思考はなくなると思わないと思う。安全保障・抑止から核の要素

推進した非保有国との対立が激化した。秋山 核禁条約の評価については次のポイントがある。第1は核禁条約が核軍縮、核廃絶どの程度貢献できるか、第2は個別の国の安全保障にどれくらい密接に関わるのか、第3は以上を踏まえて、日本にとって核禁条約は外交カードとして有用かーの3点だ。

秋山 核保有国、非保有国から集った賢人会議のメンバーは、礼節ある議論をされたと思う。礼節にはある意味、不同意

秋山 運動は重要だ。いつも言うのだが、運動と政策は車の両輪だと思ふ。政策のない運動は、同じ所をぐるぐる回っているだけになる。だからこそ、現実的な政策の輪も動かさなくてはいけない。

秋山 運動は重要だ。いつも言うのだが、運動と政策は車の両輪だと思ふ。政策のない運動は、同じ所をぐるぐる回っているだけになる。だからこそ、現実的な政策の輪も動かさなくてはいけない。